二十歳未満飲酒防止・飲酒運転撲滅「鹿児島県下街頭キャンペーン」

知事・市長揃い参加

明るい飲酒環境の実現へ総力

【鹿児島】鹿児島県の酒類生販三層組合が連携し主催する『二十歳未満飲酒防止・飲酒運転撲滅 鹿児島県下街頭キャンペーン』が4月24日午後4時30分から実施された。鹿児島県随一の繁華街で開閉会式、天文館商店街で啓発物の手渡し配布を行った。鹿児島県市千日町の天文館公園は焼酎を軸とし生販三層が強く結びつく土地柄、さらに鹿児島県知事・鹿児島市長が揃い参加するとなど別格キャンペが展開された。総力を挙げる県民運動の端緒。同地では明るい飲酒環境の実現を目指す取組でも心一つに濺（たぎ）るのだ。

開会式が鹿児島市の天文館公園で行われた。キャンペーンに込める想いを伝え、実践を誓う「宣言」も

主催は、鹿児島県酒造組合（濵田雄一郎会長）、九州南部卸酒販組合鹿児島地区会（竹下幸男会長）、島地区会（竹下幸男会長）、鹿児島県小売酒販組合連合会（八木栄壽会長）で組織する実行委員会（事務局・県小売酒販組合 鹿児島県酒造青年会（酒連合会）。青会、本坊直也会長）の大挙参加と実働でアピールを勢いづけた。

「県下の酒類の製造・販売に携わる事業者が連携し、県民に対し、二十歳未満の飲酒防止や、いまだ後を絶たない飲酒運転など、不適切な飲酒に対する意識啓発を行い、飲酒を取り巻く社会的な問題の解決を図る」のが目的。

開会式では酒造組合・乾眞一郎副会長が啓発訴求の決意を表明。続く参加者代表あいさつでは、酒類業界の社会貢献活動が称えられ、社会運動を共に推し進める考えが示された。

また主催者を代表し、小売組合八木会長が大会宣言文＝別掲＝を読み上げ、知事に対しキャンペーンに込める想いを伝え、実践を誓った。

開会式終了後、参加者は実施場所へ移動。国税庁「20歳未満の者がお酒を飲んではいけない5つの理由」リーフレット、20歳未満にはお酒合中央会・日本の酒情報館発刊のタブロイド紙「SHOCHU JOURNAL」をセットにしたもの100袋が配布された。

SHOCHU JOURNAL には、▽「伝統的酒造り」（同）▽「0」添加物ゼロ・本格焼酎・泡盛ベースのカクテル▽焼酎に関するニュース▽焼酎の日カレンダー（11月1日は本格焼酎の日など）▽焼酎も対象とする国内外酒類鑑評会・コンペティションなど盛りだくさんの情報が詰め込まれている。

閉会式で酒青会・小正倫久副会長が万歳三唱の音頭を取り、キャンペーンを締めた。社会貢献に資する行動を、より強いものにして繋ごうとの意思が示された。

開会式での各氏発言は以下。

酒造組合・乾副会長＝▽このキャンペーンは、依然として飲酒に起因する事件事故や、青少年の非行が後を絶たない憂慮すべき状況にあることから、健康で豊かな社会生活を営むため、安全な交通社会の実現や明日を担う青少年の健全育成を図ることを目指し、私ども酒類の製造販売に係わる者の社会的責務として実施している▽飲酒運転による交通事故は、発生件数・死者数ともに前年より減少のペースではあるが、飲酒による集中力や状況判断力など様々な能力が低下している状態で運転すると、多数の犠牲者を出しかねない大きな危険を伴うことから、飲酒運転撲滅を強く訴え、気運を高める必要がある▽心と体が成長の途中にある未成年者は、アルコールの悪い影響を受けやすいことから、脳の働きや体力、運動機能が低下し、さらに物事を冷静に判断することも難しくなり、飲酒運転や暴力などで周囲に迷惑をかけるようなことも起こる。また薬物乱用等に通じる入口の役割を果たしていることがよく知られている。次世代を担う若者には、大いに活躍していただく必要があり、20歳未満飲酒防止の徹底を炭酸割りの普及にもつな

生販、強い連携

焼酎王国、キャンペも〝ならでは〟

塩田知事＝▽本格焼酎は本県を代表する特産品であり、その製造販売など関連産業は本県経済を支える主要な産業であり、県では関係団体などとも連携しながら新たな市場開拓、販路拡大を図るため、国内では若者や女性を対象とした新たな飲み方を提案するなどの施策を実施している。また各国の嗜好ニーズを捉えた輸出拡大の取組も進んでいる▽今年度は新たに、外国からのお客様に本格焼酎を味わっていただき、持続的な消費につなげるため「鹿児島県焼酎カクテルフェア」の開催や、SNSを活用した本格焼酎の魅力を体験できる飲食店などの情報を発信する。世界に誇る本格焼酎のさらなる認知度向上と、販路拡大に努めていきたい▽20歳未満飲酒防止については、飲酒が未発達の心と体に及ぼす悪影響を、子どもたちや周りの大人に認識させることが重要であり、様々な機会を捉えて根気強い啓発活動を続けることが必要だ▽県内において昨年、飲酒運転による事故が29件発生し4名の尊い命が失われた。悪質危険な飲酒運転による悲惨な交通事故が後を絶たない状況である。飲酒運転根絶のためには、運転者のみならず家庭や地域、職場などにおける飲酒運転を許さない環境づくりと、県民一人一人の意識改革が重要である▽こうした中で、酒類の製造販売事業者や関係の皆様多数ご参集のもと街頭キャンペーンが実施されることは、20歳未満飲酒防止・飲酒運転撲滅に対する県民の意識啓発に大きく寄与するもので、関係の皆様のご尽力に深く敬意を表する。

下鶴市長＝▽県下の酒造・酒販業界の皆様は長年にわたり地域経済の発展に大きく貢献されるとともに、本日のキャンペーンなどで社会的課題に真摯に取り組んでおられ深く敬意を表する▽本市における飲酒運転による交通事故件数は近年、減少傾向を示していたものの、令和7年には前年の10件から17件に大幅に増加し、依然として予断を許さない状況である。飲酒運転は死亡事故につながる危険性がきわめて高く、被害者・加害者はもちろん、その家族や周囲のすべての方々の人生を大きく変えてしまう、決して許されない行為である▽また本日のキャンペーンは、20歳未満飲酒の心身への悪影響や、飲酒運転の危険性について広く市民県民の皆様に訴え、社会全体の意識を高めていく大変意義深い取組である▽本市では今後とも飲酒運転8（やっ）せん運動〈鹿児島方言ではいけないを意味する「やっせん」8項目を掲げ啓発〉や交通安全教室の実施などを通して、誰もが安心して暮らせるまちづくりを推進するとともに、鹿児島の風土と匠の技が育んだ焼酎文化を、正しい飲酒マナーと共に国内外へ発信し、鹿児島ファン・焼酎ファンの輪を広げていきたい。本日のキャンペーンをきっかけとして、20歳未満の飲酒防止と、飲酒運転根絶の取組の輪が県内各地で大きく広がることを祈念する。

熊本国税局江村酒類監理官＝▽知事市長、県警察本部交通部長をはじめ、多くの関係者にご参加いただき、酒類業の所管官庁として感謝申し上げる▽本日お集りの皆様には飲酒に関係するいと考えているので、皆さんのご理解とご協力をお願いする▽4月は20歳未満の飲酒防止強調月間である。本日は皆様と力を合わせ、20歳未満の飲酒運転の撲滅を、社会に力強く訴えていきたい。社会全体のより良い飲酒環境の醸成を祈念する。

鹿児島県警察本部・中島交通部長警視正＝▽民法で成人年齢は18歳に引き下げられているが、法律により20歳未満の飲酒は禁止されている。令和7年度中は104人を飲酒で補導している。成人年齢と飲酒可能年齢については、誤解が無いよう引き続き様々な機会を通じて周知を図るとともに、未成年の健全育成に努めていきたい▽一方、令和7年度中に飲酒運転で444人を検挙している。この中には自転車による飲酒運転も73件含まれている。自転車については従来は、酩酊状態で運転する酒酔い運転に限り罰則が適用されていたが、道路交通法の改正により、体内に一定基準以上のアルコールを保有した状態で運転する酒気帯び運転も罰則が適用されるようになった▽飲酒運転は一瞬の判断の誤りで尊い命と平穏な日常を奪う恐れがある重大な犯罪である。県警察としては、交通指導取り締まりを徹底することはもとより、皆様方をはじめとする関係機関・団体のご協力をいただきながら、飲んだら乗らない・乗るなら飲ませないという規範意識が社会全体に根づくように啓発を推進するなど飲酒運転の根絶に全力を期していく▽本日このように酒類の製造販売に携わる皆様方が中心となって官民一体による飲酒運転撲滅キャンペーンが実施されることは大変有意義なことであり、飲酒運転撲滅に対する県民の気運醸成に大きく寄与するものと大いに期待する。

鹿児島県酒造組合・九州南部卸酒販組合鹿児島県小売酒販組合連合会で組織「生販三層協議会」主催

宣言文

健康で豊かな社会生活を営むために、安全で快適な交通社会の実現や明日を担う青少年が健全に育成される社会環境づくりが、国民すべての願いです。

しかしながら、近年でも飲酒に起因する事件・事故が後を絶たないのは、誠に憂慮すべき状況であります。

一方で青少年の非行は、大人をはじめとする社会全体の規範意識の低下が大きな影響を与えています。

酒類の製造・販売に関わる私たちは、致酔性を有する商品を扱う者として社会的責務において、青少年の非行防止と健全育成の重要性を深く認識し二十歳未満飲酒防止と飲酒運転撲滅に向けた啓発運動を、広く県民の方々と一体となって実践いたします。

本日ここに、鹿児島県酒造組合・九州南部卸酒販組合鹿児島地区会・鹿児島県小売酒販組合連合会は、二十歳未満飲酒防止・飲酒運転撲滅に資するため、

一、二十歳未満と思われる者に対する年齢確認を実施すること

一、酒の適切な表示と区分陳列を行うこと

一、店頭に啓発ポスターを掲示し、二十歳未満飲酒防止・飲酒運転撲滅の注意を喚起すること

一、運転する人には飲ませない・飲んだ人には絶対運転させないよう地域との連携を密にし、飲酒運転撲滅の環境を醸成すること

以上の取組を関係機関等と連携し、積極的に推し進めていくことを宣言します。

令和八年四月二十四日

鹿児島県小売酒販組合連合会　会長　八木栄壽